

2011(平成23)年度事業報告

2011年10月1日から2012年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

<事業の成果>

「モンゴル障害者支援事業」では、熱意のある療育専門家の協力・参加のもとに、4月から5月にかけて専門家がチームでモンゴルを訪問した。現地の障がい児医療を行っているモンゴル国立母子健康研究センター(以下、母子センター)小児神経科で診察・訓練指導を行い、障がい児医療機関との交流が実現した。現地での協力者も得て、8月にも理学療法士の研修を実施するなど、状況把握・療育関係者との交流をすすめることができ、今後の事業展開を検討できるようになったことは、一つ支援のステージがアップしたといえる。

当初より行っている車いすの支援についても、持って行った車いすを使えそうなお子さんに調整してお渡ししてきたが、専門家の協力により、現地での採寸に基づいて身体に合った車いすを探して送るという道も開けた。

タイについては、北タイのNGO ルデラ(Rural Development of Lahu)と協力し、北タイへの交流ツアー、高校生のスタディツアーをコーディネートしている。参加した高校生たちの報告文がいくつもの作文コンクールで高い評価を得ている。

組織運営については、事務局業務のうち、経理を分担して担当することにより、事務局強化を図ることができた。2012年度からの新しいNPO会計基準への移行も準備ができた。

財政面では、事業の拡大に伴い、財政的な裏付けを充実させることが課題となった。

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障害者支援事業

ア. 療育専門家の訪問

療育の各種専門家がチームを構成しモンゴルを訪問し、ウランバートルにおいて現地で障がい児の診断をしている母子センター小児神経科において3日間診察・訓練指導を行い、現地の医師たち



と交流した。その他障がい児・者関連施設3か所でも同様に現状把握をした。

実施期間：2012年4月28日(土)～5月7日(月) 10日間

訪問場所：ウランバートル市内

国立母子センター小児神経科・リハ科 / 障がい児親の協会 / 第10治療保育幼稚園 / ソヴド治療保育園 / 自立生活センター(Universal Progress Center) / 在モンゴル日本大使館

訪問団メンバー：7名

中島雅之輔(整形外科医・東京都北療育医療センター)



諸石真理子（理学療法士・通所&入所施設嘱託）
吉濱信恒（理学療法士・ニンジン副理事長・
モンゴル支援事業リーダー）
大塚栄次（義肢装具士・(有)大栄製作所、ニンジン副理事長）
今清水勝人（車いす技術者・(株)ゼット本社）
中島久子（中島医師夫人・記録）
槇ひさ恵（事務局・ニンジン事務局長）

現地協力：ヒシゲーさん（通訳）、高橋生仁子さん(NGO Sujatashand)
オユン国会議員、

宮口彩子さん(協力隊員・外傷整形外科センター・PT)

藤原麻美子さん(協力隊員・第10治療保育幼稚園・ST)、他

主な内容：・母子センターでの障がい児の診察、訓練の指導、
レクチャー、質疑・懇談
・障がい児親の会でのセミナー、診察・訓練の指導、車いす
の配布
・第10治療保育幼稚園での診察・訓練の指導、
・ソヴド治療保育園での診察・訓練の指導、車いす等の配布

成 果：専門医師の協力が得られたことにより、モンゴルの障がい児
の診断をする医療機関との具体的な交流をすることができた。
現状を知ることができ、今後の療育の実現に向けて検討が可
能な位置につけた。

課 題：専門家がほとんど個人負担で協力して参加いただいているた
め、継続参加は難しい。財政的な裏付けが必要である。

イ．理学療法士(PT)の研修会の開催

夏の交流ツアーに諸石 PT が参加し、期間中の3日間を使って、脳性まひ児
に対応する PT のための研修会を開催した。

実施期間：2012年8月13日～15日に11時間

研修会場：国立母子センター小児リハビリテーション科

テ ー マ：脳性まひ児の理学療法と家庭療育

内 容：ケーススタディ（親子10組）、理論講義(総論および各論)、

研 修 生：母子センターPT2名、医師1名、ソヴド治療保育園1名、
第10治療幼稚園PT1名 OT1名、Sujatashand 保母1名

現地協力：ヒシゲーさん（通訳）、高橋生仁子さん

川島由貴子さん(協力隊員・外傷整形外科センター・OT)

成 果：養成コースを出た PT(昨年1期生が卒業)であっても、臨床
研修できる指導者がモンゴルにはいないため、脳性まひに
ついての理解、脳性まひ児への理学療法を専門家から直接
学ぶ機会を初めてつくることができた。

課 題：研修生及びリハ科長から継続の強い要望を受け母子センター

と協力して継続実施が可能な態勢をつくる必要がある。

ウ．使用済み車いすの収集と配布

心身障害児総合医療療育センターにおいて君塚所長の声がけにより、使用済みの子ども用車いす、座位保持椅子などが車いす業者さんの協力で集められている。今期は、春の専門家の訪問、夏のツアー参加者の手で2回、合計40台をモンゴルへ届けることができた。

車いすの収集・整備・清掃・搬出

作業日数：8日、参加人数：のべ約27人

協力団体：心身障害児総合医療療育センター、
川崎子ども夢パーク、東村山市あゆみの園、
株式会社 MIKI、株式会社ゼット本社

2012年4月28日(土) 療育専門家訪問団が持参。

台数：車いす6台、バギー3台、座位保持椅子1台、装具8組
輸送協力：モンゴル航空

配布先：障がい児親の協会 車イス5台、バギー2台
ソヴド治療保育園 座位保持椅子1台、バギー1台、
Sujatashand 車いす1台

現地協力者：ヒシゲーさん(通訳) 高橋生仁子さん(Sujatashand)
デルメさん(元留学生)、他

2012年8月11日(土) 8月モンゴル交流ツアー参加者により

台数：車いす18台、バギー4台、座位保持椅子6台、
椅子1台、歩行器1台、訓練具6点、下肢装具12組
輸送協力：モンゴリアンエアラインズ

配布先：障がい児親の協会 車いす10台、バギー2台、
座位保持椅子1台
ソヴド治療保育園 座位保持椅子1台、バギー1台、
訓練具1点

Sujatashand バギー1台
母子センター 座位保持椅子4台、歩行器1台、
椅子1台、訓練具5点
自立生活センター 車いす8台、

現地協力者：ヒシゲーさん(通訳) 高橋生仁子さん(Sujatashand)、
石橋和比古さん(協力隊員・国リハ・義肢装具士)
小泉裕一さん(協力隊員・第3病院・PT)
清水由歌さん(協力隊員・第3病院・OT)

成果：車いすの技術者である今清水さんの参加により、今後必要としている子どもの採寸をして情報を送ってもらうことで、よりの確な車いすを提供することができる。

課題：従来の収集・配布の方法と並行して身体に合った車イスを探して提供するための現地、国内協力者との連携や、無理のな



いスケジュールを組む必要がある。

(2) タイ、ミャンマー山岳少数民族（ラフ族）自立支援事業

ア．ミャンマー研修農場支援

ミャンマー在住ラフ族の自立支援のためのプロジェクト「ビルマ・シャン州農援団」の事務局として、チェントゥー市の研修農場(代表：ドナルド氏)に協力者を通じて農援団支援金 150,000 円を現地へ送金した。現地ではこれをもとに豚バンクを始めている。農援団事務局はこれで終了した。

協力団体：NGO ルデラ（ラフ農村開発 / 代表：ダイエー・セイリ氏）

2．海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

ア．『第8回モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』の実施

車いすをモンゴルに運び、障がい児に届けて交流し、あわせてモンゴルの大自然にふれるツアーを実施した。

実施時期：2012年8月11日(土)～18日(土)

参加者：全行程4人、現地部分参加者3名

訪問先：障がい児親の協会、ソウド治療保育園、

自立生活センター、テレルジ国立公園、ホスタイ国立公園他

イ．『北タイ・焼き畑の村スタディツアー』の実施



ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ（ラフ農村開発）では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みを実際に見て、あわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。植林する農民に豚を配り生活支援をしており、今回は千葉県東金市の西芳秀氏(獣医)が講師となり、村で豚の飼育方法についての研修を行った。

実施時期：2012年3月7日(水)～14日(水)

参加者：全行程3名、現地参加3名

内容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、村の生活体験、森復活の取り組み見学、養豚講座、古着バザー開催、研修農場見学、子ども寮で交流。

ウ．タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施時期：2012年7月22日(日)～30日(月)

受入人数：順天高校より、生徒19名、引率教員3名

内容：＜チェンライ＞山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での体験、子ども寮での交流、＜パヤオ＞学校訪問、ホームステイ、＜チェンマイ＞HIV/AIDS関連の活動、ストリートチルドレン関連施設などの訪問、視察交流、象乗り



協 力 者：ダイエー・セイリ氏（チェンライ・ルデラ代表）
川口泰広氏（チェンマイ）

3．啓発事業

(1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催

セミナー：「北タイ山岳少数民族の現状と未来」～上映と監督を囲んで～

実施日時：2012年2月5日(日) 14:30～17:30

会 場：協働ステーション中央 会議室（中央区）

内 容：ルデラ交流ツアー記録『森のうたが聞こえる』上映と懇談
語 り 手：今泉光司監督（NPO 法人サルボン、『アボン 小さい家』）

聞 き 手：小松光一（ニンジン理事、講師） 参 加 者：16名

4．文化交流事業

(1) モンゴル文化紹介コンサートの開催

モンゴル音楽を紹介する七夕コンサート『モンゴルの風』を実施した。会場ロビーにモンゴルでの活動写真パネルを展示し、ステージからもモンゴルから帰国した協力隊員が現場の状況を報告し、ニンジンの活動への理解を広めた。



開催日時：2012年7月7日(土) 19:00～21:00

会 場：ルーテル市ヶ谷センター（東京・新宿区）

出 演 者：バトエルデネ(馬頭琴)、ムンフツェツェグ(二胡)、
サルナイ(オルティンドー)

来 場 者：147名

(2) ハワリンバヤル2012（モンゴルの春まつり）への参加

在日モンゴル留学生会が中心となり開催されているモンゴル文化交流イベントにブース出展し、活動を紹介するパネル展示を行い、来場者に理解を広めた。

開 催 日：2012年5月4日～5日

会 場：練馬区・都立光が丘公園

主 催：在日モンゴル留学生会 / 実行委員会

(3) モンゴル文化紹介(協力)

公民館主催の国際理解講座に協力して、モンゴル社会およびニンジンの活動を紹介し、文化紹介として伝統的歌唱法ホーミーを鑑賞、質疑応答をした。

実施日時：2012年1月18日(水) 10:00～12:00

会 場：さいたま市立文蔵公民館 視聴覚室

出 演 者：B.ボルドーエルデネ(馬頭琴・ホーミー)、

5．情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

- 情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。
(日本財団CANPAN、日本NPOセンターNPOひろば、イーココロ)
(2) ニュースレターの発行、Eメールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

6. 東日本大震災復興支援事業

(1) 募金をもとにした支援活動

指定寄付金：303,294円(2011年9月30日現在)が集まった。

ここから30万円を宮城県石巻市の特定非営利活動法人「障害児と共に歩む会」に活動を再開するための支援としてお渡しした。

(2) 現地へ行っての支援活動

集まる拠点が津波で流されて、集まって交流する機会がもてなくなっていた「障害児と共に歩む会」が1月にピアノ教室の協力でニューイヤーコンサートを開いた。その応援(炊き出し)に行き、あわせて被災地の状況を視察を実施した。

実施日：2012年1月27日(金)~29日(日) 参加者：5名

共催：特定非営利活動法人明るい社会づくり運動

7. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。会員数(2012年9月30日現在)

・個人正会員 37名(4名増、2名未納) ・個人賛助会員 45名(56口)

・団体正会員 3団体(1団体増) ・団体賛助会員 3団体(新規3団体)

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催 (年1回)

期日：2011年11月26日(土)

会場：JICA地球ひろばセミナールーム403

イ. 理事会の開催 1月8日、9月28日

ウ. 運営委員会の開催

運営委員会を開き、事業実施の詳細を決め実施した。8回開催。

原則として毎月第3木曜日に開催。会場：大友喜久江さん宅(初台)

(3) 事務局機能の充実

総務部門(経理および会員管理)の担当を大友喜久江さんが担い、事務局が2人体制となった。経理については、岡田州代さんがアドバイザーを務めた。NPO法人イーパーツより、リユースノートPCの寄贈を受けた。

(4) ニンジン・サポーターズ倶楽部

・イベントに出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

「ひよこっち」第14回自主ライブ(2012年3月24日~25日)

順天高校スponsoredウォーク(2012年4月28日)

ハワリンバヤル(2012年5月4日~5日)

2011年度 収支計算書

(特定非営利活動に係る事業会計)

2011(H23)年10月1日～2012(H24)年9月30日

収入の部

(単位: 円)

科 目	2011年度 予算額	2011年度 決算額	差額 -	備 考
1 会費	620,000	698,000	78,000	
個人正会員	380,000	350,000	30,000	33名(前受2名)
団体正会員	60,000	90,000	30,000	3団体
個人賛助会員	180,000	168,000	12,000	53名+前受3口
団体賛助会員	0	90,000	90,000	3団体
2 寄付金収入	460,000	536,283	76,283	
一般寄付	350,000	400,263		約20名
使途指定寄付	110,000	136,020		東日本大震災、車いす寄贈
3 事業収入	5,752,500	4,083,110	1,669,390	
協力事業	0	694,130	694,130	
交流事業	5,270,000	2,965,980	2,304,020	
啓発事業	0	0	0	
文化交流事業	482,500	423,000	59,500	
4 補助金等	0	0	0	
5 その他	50	159	109	受取利息
当期収入合計(A)	6,832,550	5,317,552	1,514,998	
前期繰越収支差額(B)	1,160,052	1,160,052	0	
収 入 合 計C(A+B)	7,992,602	6,477,604	1,514,998	

支出の部

(単位: 円)

科 目	2011年度 予算額	2011年度 決算額	差額 -	備 考
1 事業費	6,569,594	5,081,694	1,487,900	
協力事業費	752,000	1,611,985	859,985	
交流事業費	5,120,000	2,909,333	2,210,667	
啓発事業費	10,000	0	10,000	
文化交流事業費	294,300	241,020	53,280	
情報提供事業費	40,000	19,356	20,644	
東日本大震災復興支援	353,294	300,000	53,294	
2 管理費	662,000	570,354	91,646	
給与手当	120,000	0	120,000	
会議費	2,000	4,609	2,609	
什器備品費	30,000	0	30,000	
委託費	240,000	240,000	0	賃借料、光熱水費等
消耗品費	15,000	85,781	70,781	
旅費交通費	110,000	110,250	250	
通信運搬費	120,000	98,667	21,333	
印刷製本費	10,000	13,487	3,487	コピー代
諸会費	10,000	10,000	0	
雑費	5,000	7,560	2,560	振込手数料他
3 租税公課	3,000	700	2,300	
4 予備費	50,000	0	50,000	
当期支出合計(D)	7,284,594	5,652,748	1,631,846	
当期収支差額(A) - (D)	452,044	335,196	116,848	
次期繰越収支差額(C)-(D)	708,008	824,856	116,848	

貸借対照表

(特定非営利活動に係る事業会計)

2012(平成24)年9月30日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 流動資産		1 流動負債	
手許現金	13,472	前受け金	10,000
普通預金	825,817	未払金	4,433
		2 固定負債	
郵便振替口座	0	なし	0
流動資産 合計	839,289	負債の部 合計	14,433
		正味財産の部	
2 固定資産		正味財産	
なし	0	前期繰越正味財産	1,160,052
		当期正味財産増加額	335,196
		正味財産 合計	824,856
資産の部合計	839,289	負債・正味財産の部合計	839,289

監査報告書

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人ヒューマン
理事長 足立保夫 様

私たちは、2012（平成24）年10月1日から2012（平成24）年9月30日まで
の会計年度に2012年決算及び業務の監査を行い、その結果、事業報告書、財
産計算書は、当該年度の業務執行及び全ての取組、その経過並びに当該年度末
における財政状態を適正に表示し、内容が正しいと認めました。

2012年12月27日

監 査 人 谷口 奈保子

監 査 人 平塚 綾子